

平成27年ホヤ類調査結果速報 No. 4

平成27年10月9日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

協力機関：渡島地区水産技術普及指導所

渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

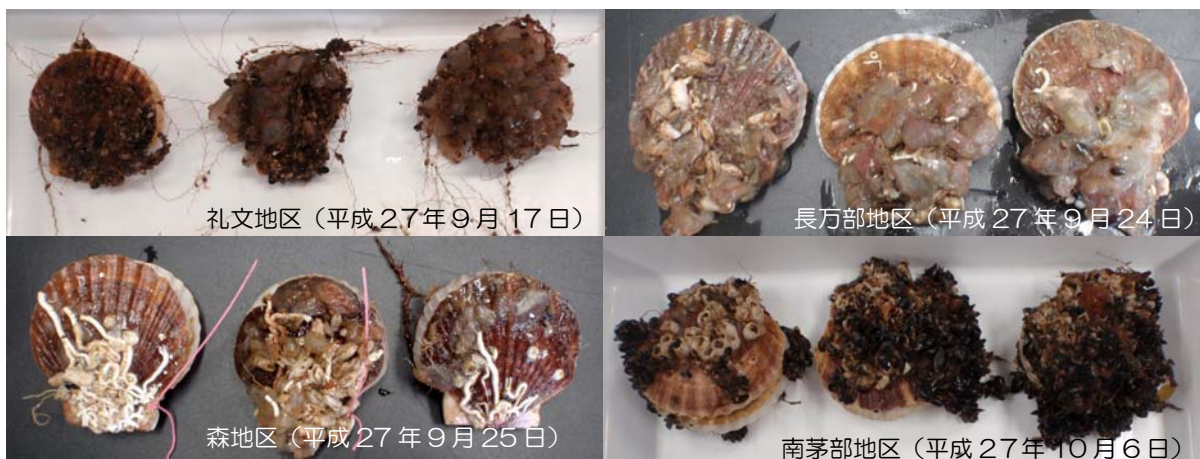
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月14日～10月6日に噴火湾周辺沿岸の各地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 調査を行った全地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1、2、3）。
- 今年のヨーロッパザラボヤの付着は虻田～八雲地区が中心となっています（図2、3）。
- 体サイズは5～25mmの個体が約7割を占めています。5mm未満の個体の割合は少ない地区が多く、新たな個体の付着は少なくなっていると考えられます（図4）。
- 平成27年の付着状況を昨年と比較すると、付着個体数は八雲、森地区で昨年を上回っています（図5）。
- 付着個体数が多い地区では、昨年以上のペースで付着重量が増加していくと考えられますので、特に注意が必要です。

図1 耳吊ホタテガイへの付着状況（礼文、長万部、森、南茅部地区）



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

耳吊りホタテガイ付着物調査

〔調査月日：9月14日～10月6日、調査地区（伊達、虻田、礼文、長万部、八雲、森、鹿部、南茅部）〕

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに3～5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いた観察により、付着物の識別、採取を行いました。ヨーロッパザラボヤおよびその他付着物の重量測定、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定を行いました。なお、八雲地区は、9月14日に実施した函館水試の定期調査の結果（函館水試HP、平成27年ホヤ類調査結果速報 No. 3 参照）を用いています。

1) 付着重量と付着個体数

ヨーロッパザラボヤの付着重量、付着個体数ともに、虻田、礼文、長万部および八雲地区で数値が高くなっています（図2、3）。一方、それ以外の地区では、付着量は比較的少なく、昨年と同様、湾奥部（虻田～八雲地区）で付着量が多い状況です（函館水試HP、平成26年ホヤ類調査結果速報 No. 4 参照）。なお、伊達、鹿部、南茅部地区では、イガイ類やフジツボ類の付着が目立ち、これらの地区では、その他重量が重くなっています。

図2 各地区の付着生物重量（平成27年9月14日～10月6日）

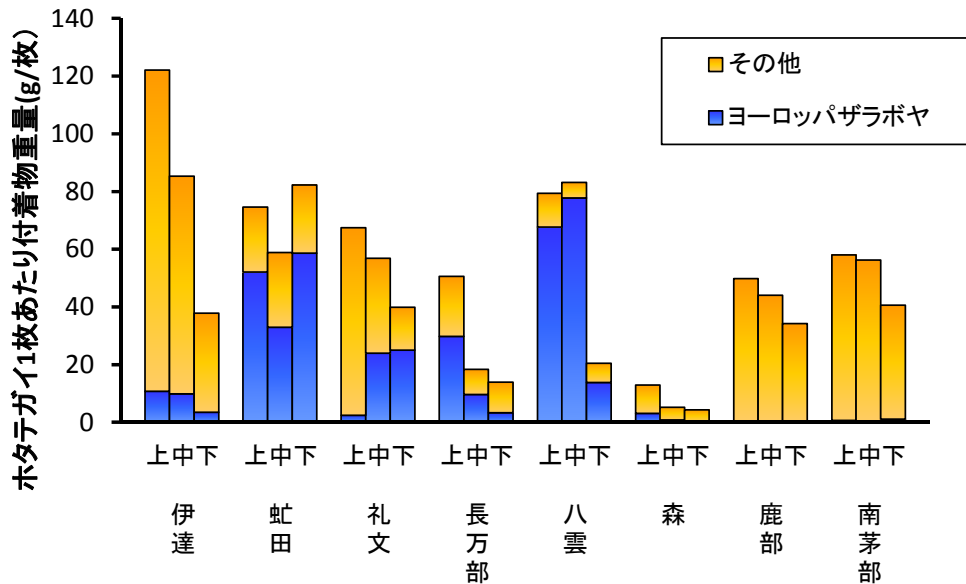
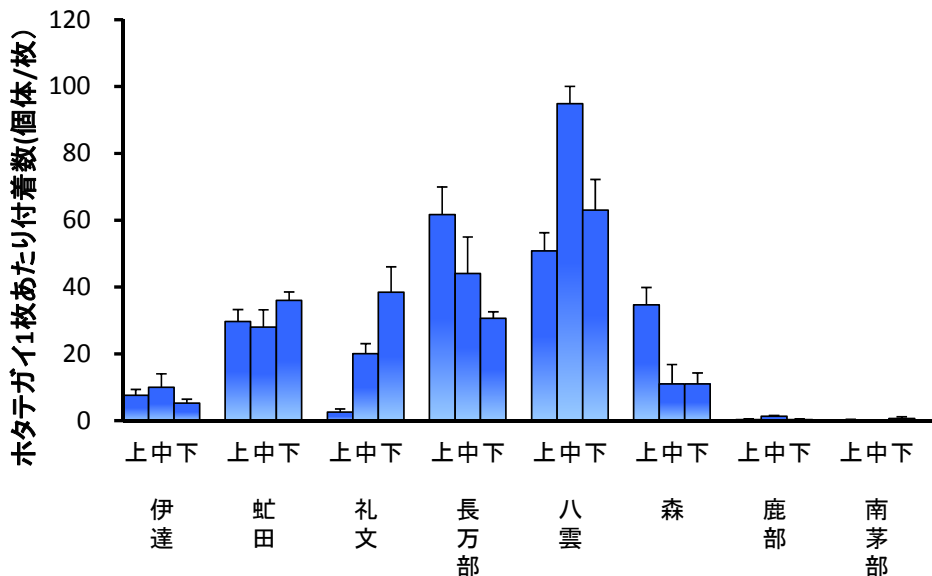


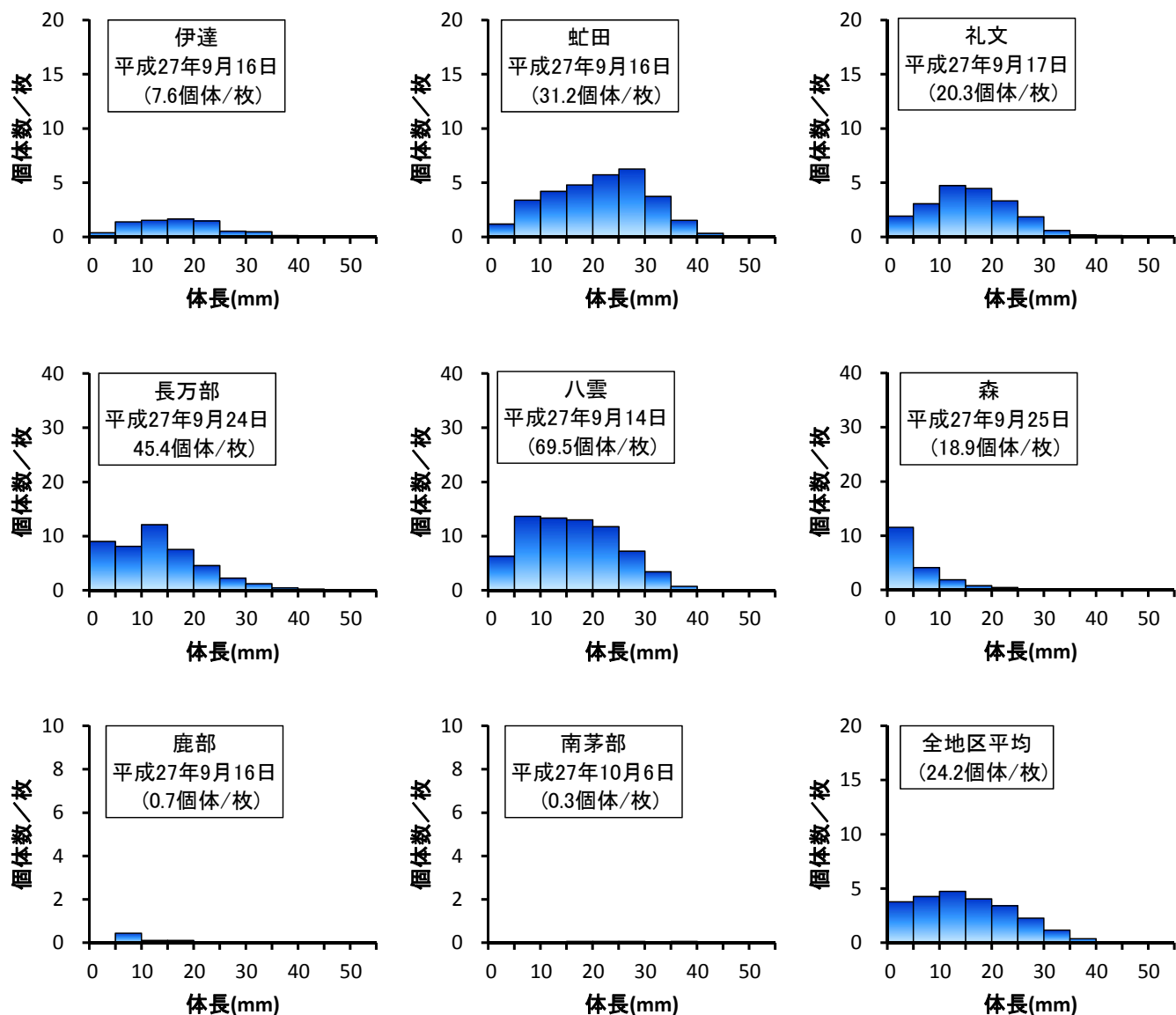
図3 各地区のヨーロッパザラボヤの付着個体数（平成27年9月14日～10月6日）



2) サイズ組成

養殖ホタテガイに付着しているヨーロッパザラボヤは、5~25mm の個体が中心となっています（図 4）。5mm 未満の個体は少ない地区が多く、新たな個体の付着は少なくなっていると考えられます。

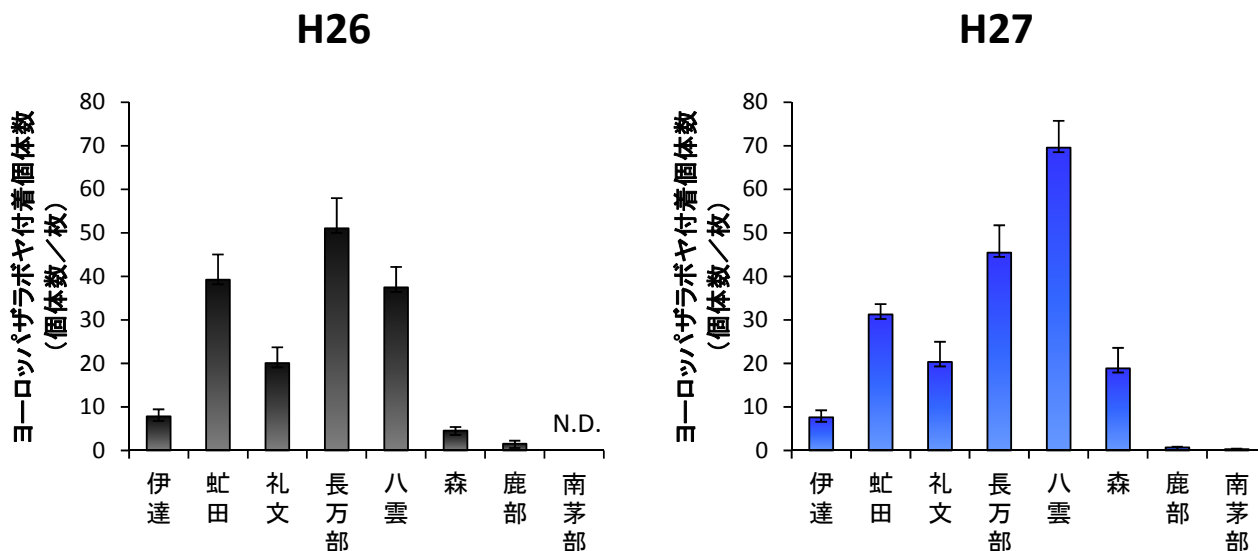
図 4 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（平成 27 年 9 月 14 日~10 月 6 日）



3) ヨーロッパザラボヤ付着個体数の昨年との比較

今年の付着個体数を昨年と比較すると、八雲、森地区で昨年を大きく上回っています(図5)。一方、他の地区については、昨年並み、もしくは昨を下回っています。付着個体数が多い地区では、昨年よりも付着重量の増加ペースが速くなると考えられます。特に個体数が多い八雲地区では、貝洗い等の対策を積極的に進めてください。

図5 H26とH27の各地区ヨーロッパザラボヤ付着個体数(3層平均)の比較
(調査期間:平成26年9月16日~10月2日、平成27年9月14日~10月6日)



(参考) 噴火湾の「ザラボヤ」について

平成20年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴等については、インターネット上で公表されている以下の文献を参考としてください。

- ・金森誠: 噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭: 外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告 81: 151-156)
- ・金森誠・馬場勝寿・近田靖子・五嶋聖治: 北海道における外来種ヨーロッパザラボヤの分布状況(日本ベントス学会誌 69(1): 23-31)